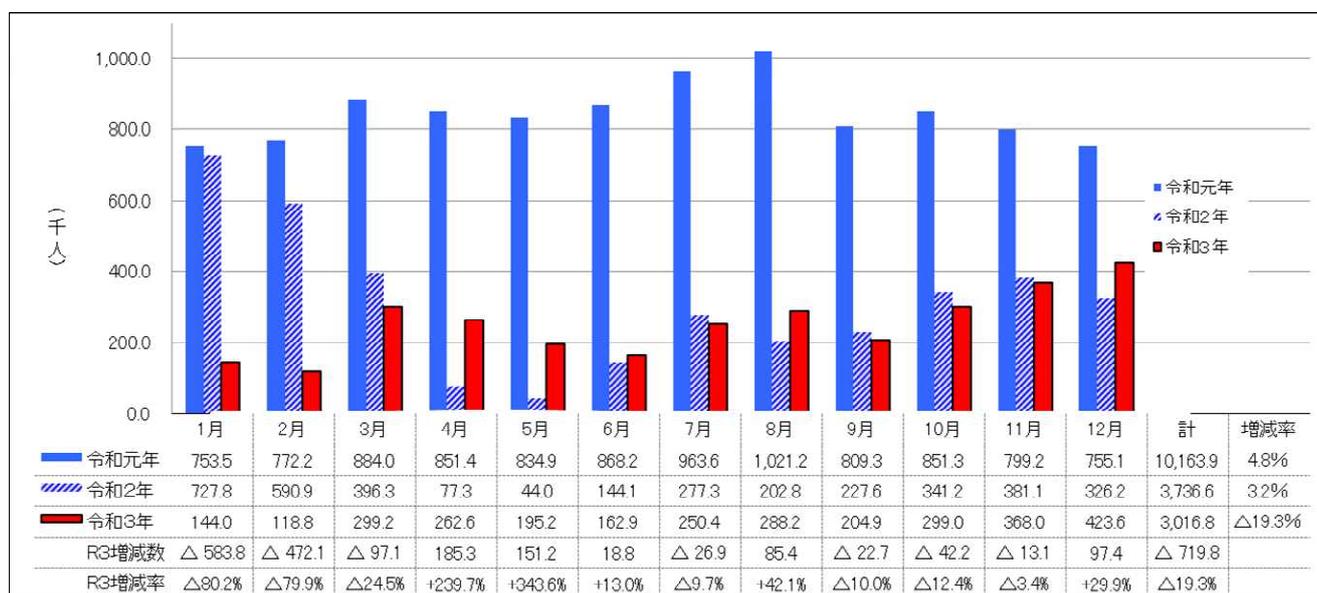


令和3年（暦年）沖縄県入域観光客統計概況

文化観光スポーツ部 観光政策課
令和4年1月発表令和3年（暦年）の観光客数は、**301万6,800人**対前年（R2）比 $\Delta 71$ 万9,800人、 $\Delta 19.3\%$ ～ **減少数、減少率ともに過去3番目** ～※対前々年（R1）比 $\Delta 714$ 万7,100人、 $\Delta 70.3\%$

■月別入域観光客数の推移（令和元年～令和3年）



■令和3年（暦年）の概況（総括）

令和3年（暦年）の入域観光客数は301万6,800人となり、前年比 $\Delta 71$ 万9,800人、率にして $\Delta 19.3\%$ となった。暦年の観光客数としては、東日本大震災の影響を受けた平成23年以来9年ぶりに対前年比で減少に転じた令和2年に続き、2年連続で前年を下回ることとなった。

令和2年と比べて減少した主な要因は次の通りと考えられる。

- 新型コロナウイルス感染症の影響による旅行の自粛
- 国内航空路線の運休・減便による国内客の減少
- Go To トラベル事業の一時停止
- 海外から日本への入国制限措置がとられたことによる外国客の減少（皆減）

■令和4年の見通し

国内客については、新型コロナウイルス感染症の感染状況や治療薬の普及、Go To トラベル事業の実施状況などに大きく影響されると考えられる。

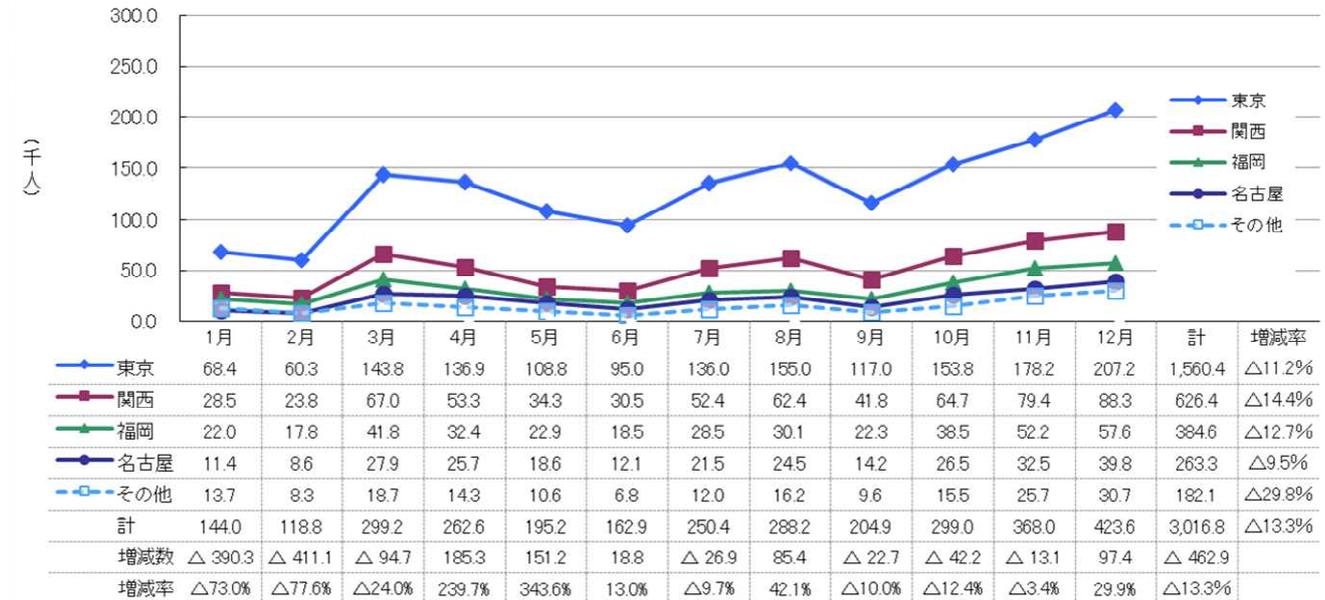
また、外国客については、海外から日本への入国制限措置がとられており、緩和の見通しが立っていないことから、当面の間は厳しい状況が予想される。

国内客の動向

■入域観光客数（国内）

令和3年（暦年）の国内客は、301万6,800人で、対前年比△46万2,900人、率にして△13.3%となった。

■令和3年（暦年）国内客の状況（方面別の月別推移）



■国内客の概況

令和3年（暦年）においては、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により1月から9月までの長期間で緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用となり、感染状況が落ち着いた10月以降、段階的に経済活動が再開された。

前年と比べると、前年の4月から5月にかけて全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、措置の適用による移動自粛の要請が一部地域であったことや、夏季期間に季節便の運航があったこと、措置解除後に旅行需要が一定程度回復したことなどから、前年を上回る月もあったが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が長期間にわたり適用された影響が大きかったことから、前年を下回った。

【方面別の動向】

東京方面 羽田－宮古路線での増便や羽田－那覇路線での新規就航があったものの、羽田－石垣路線などで減便があったことや提供座席利用率が減少したことなどから、前年を下回った。

関西方面 伊丹－那覇路線での増便があったものの、関西－那覇路線などで減便があったことや提供座席利用率が減少したことなどから、前年を下回った。

福岡方面 福岡－那覇路線の新規開設があったものの、福岡－石垣路線などで減便があったことや提供座席利用率が減少したことなどから、前年を下回った。

名古屋方面 中部－那覇路線などの新規開設があったものの、名古屋－石垣路線などで減便があったことや提供座席利用率が減少したことなどから、前年を下回った。

外国客の動向

■入域観光客数（外国）

令和3年（暦年）の外国客は、令和2年の25万6,900人から皆減（ゼロ）となり、復帰後初めて外国人観光客が0人となった。

■外国客の概況

令和3年（暦年）は、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響から、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から日本への入国制限措置がとられたことにより、外国人観光客が皆減となった。